



1月～2月は全国の123決起集会及びよい仕事研究交流集会に参加させてもらっているが、古村理事長は法制化を前に協同労働を拡げることと深めることの重要性や、虫の目・鳥の目・魚の目で細部に拘り俯瞰して全体を見て時代の流れを読むことに加えて、コウモリの目で逆さになってこれまでの常識を壊して自由に創造的なよい仕事を創り出そうと挨拶している。九州の演劇などは来賓の協同組合関係者も言っていたが、自分たちの歴史・実践・想いが分かりやすく伝わり、協同労働を拡げる素晴らしい取り組みと同時に、組合員の多様な才能を引き出し、文化を高めることにも繋がっていると感じた。また東海の集会には地域にある労協・高齢協のほとんどが参加し、また協同集会の実行委員会のメンバーも結集し実践を共有し深めたことは、団体の枠を超えて協同労働を深めるだけでなく、法制化を見据えて地域で協同労働を拡げ、新たなワーカーズが立ち上がったときの支えていく仕組みとしても重要に感じた。

2月7～8日は今年度最後のリーダー基礎研修が埼玉県深谷エリアで行われ、つながりのある瑠璃光寺というお寺で開催し、途中座禅体験もさせてもらいながら、3回目の研修を実施。岡元さんをリーダーとした深谷だんらんグループ

の仕事おこしの連続で拡がる実践に参加者一同驚きを隠せず、目の前の困っている人をなんとかしたいというブレない想いや、仲間と話し込み、次のリーダーを発掘し、据えていく手法など、多くを学ぶことができた。最後の交流会も盛り上がり、終了後のカラオケにも多くの人が参加し、長野の歌姫？など新たな才能が発掘されるなど結束が深まり、全国に仲間ができることの価値も感じた。

加盟組織の訪問も長野高齢協が自費や委託事業を展開するために立ち上げた「NPOワーカーズコープかがやき」を訪問し全国22ヶ所をまわってきたが、鈴木・新井両理事長の創設者たちの夢とロマンや新しい協同組合の価値を一生懸命伝えて拡げてきたことに感銘を受けた。経営に苦しむワーカーズコープちばや労協ながのとの協議も始まり、どのように組合員主体の協同労働の組織に変わっていくことで事業・経営・運営が改善していくか共に考える。またユニオン建設労協（神奈川）、しあわせファクトリー（東京）では集会参加も含め、センター事業団と相互訪問し互いの得意技や困りごとを共有。具体的な事業の連携や仕事おこしの挑戦がはじまっている。連携実践を増やし、地域レベルでの労協グループの連帯を拡げたい。